

『男の隠れ家』は ロマンを抱き男らしさを追求する 最強のツールだ!

INTERVIEW

五領田有信

(弁護士)

Goryouda

Arinobu

男の尊厳回復こそが 家族崩壊の危機を救う

「本誌『男の隠れ家』は、夢を追い求め、男性の尊厳をも回復させるこの上ないツールである!」

男性専門の離婚を扱ってきた五領田有信弁護士(レンジャー五領田法律事務所)はそう確信する。

家庭裁判所は、家族が断末魔を発し最期を迎える場所でもある。そんな場面に立ち会う日々の中で、五領田弁護士はいつも「夫婦とは?」「親子とは?」「家族とは?」と考えさせられ、なぜこんな結末になったのか?と心を痛めることも多い。

「離婚裁判では圧倒的に男性側の

「男らしさ」の喪失が
離婚の背景にあるという五領田弁護士は
書店で見つけた1冊の雑誌
『男の隠れ家』に“男性”の回復を期待する

立場が弱いとされますが、それは単に法律的な問題だけではなく、男性の「線」が細くなったことも大きな原因ではないかと思えます」

つまりは男が「男らしく」なくなった。男の尊厳や父性の喪失が家族の崩壊を招く大きな要因になったのではないかということだ。

男女平等の社会を目指し、社会のあらゆる分野に女性が進出し、指導的立場につけるようにと制度的な仕組み作りが行われている。その一方で、男性の家事・育児への参画の重要性について啓蒙活動も進み認知されつつある。

そうした状況に五領田弁護士は「男女平等はもちろん大切なことです。しかしそれによって男女の中性化が進んでいるように思う。『男らしさ』や『女らしさ』までが不平等の要因であるかのように捉えるのは間違い。本当の男女平等とは、互いの人権を尊重しつつ、より良い未来を実現するために責任も分かち合える社会を創ることでしょう」と語る。

その上で、男が男らしくなることで女も女らしくなれると考える。それが相対的關係ならば、男は男らしさを回復することに注力すべきだろう。

「私は妻の世話になって8度目の



ごりょうだ・ありのぶ/昭和50年2月18日生まれ、神奈川県出身。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。陸上自衛隊に入隊。第1師団レンジャー部隊にてレンジャー徽章を獲得。平成26年、レンジャー五領田法律事務所を創設。男の離婚、自衛隊・防衛産業の法律相談を手がける。趣味はボディビル。

挑戦で司法試験に合格しました。途中、諦めかけましたが、このままでは自信を持って子どもたちに人生を語り導けないと思い奮起しました。何かに必死に打ち込む決意と行動が、男らしさや父親らしさを回復させたのだと思います」

と五領田弁護士は述懐する。

『男の隠れ家』は、男にロマンを見させるだけでなく、そんなふうにし失いかけた自信を回復させるツールにもなる。隠れ家という我がままを通せる時間や空間の中で、何かにこだわりの持ち、熱中することで、本来の男らしさを蘇らせることができる。

「自信を回復した男に、妻は改めて魅力を感じると思うし、子どもは父親の存在の大きさを感じるようになる。そうなれば家族崩壊の危機も乗り越えられ、我々の出番も少なくなるでしょう」と五領田弁護士は締める。